

新型コロナウイルス感染防止のため、本誌掲載のイベント・講座などは、変更・中止する場合があります。

もくじ

えび人 vol.43	02	私と海老名 その7	
今号の表紙	03	市民の広場	11
HUGHUG子育て	04	ホール・ギャラリー	12
小学生・中学生の作品を		相談	13
募集します	06	図書館	14

「広報えびな」の共通マークとルール

日日時・日にち 期間 時間 場所 対象 定員
 内容 講師 費用 持ち物 その他 任期
 条件 主催 Eメール ホームページ 問い合わせ
 申し込み 予約制 祝日を除く 休み

高齢者対象の教室など えびな健康マイレージ対象

50 市制施行50周年記念事業

市外局番…省略している場合はすべて「046」です
 市〇〇〇課への郵送…「〇〇〇課へ」とあるものは「〒243-0492勝瀬
 175-1海老名市〇〇〇課行」と記入してください
 市役所開庁時間…省略している場合は原則「月～金8時30分～17時15分」

今号の表紙

題字と写真は市民の方の作品を掲載しています。ご協力ありがとうございました。

題字

えびな



バランスが難しかったけど頑張りました！
 社家小学校 佐藤隼多さん(10歳)

写真

タイトル：未来への円橋
 撮影場所：門沢橋地区
 撮影者：藤沢市在住
 斎藤一博さん



編集雑記

「極力人に会わない」「人と密な距離を避ける」という日常になってから取材回数は減りましたが、『えび人』の掲載は継続してきました。えび人、の知恵や工夫にはいつも目を丸くします。活動的な人からは元気をもらいます。今この時だから発信できる市民の姿。次はどんな人を皆さんに紹介できるか楽しみです。(あ)



愛着がある場所、住人たちの手助けを

谷村さんは10年ほど前に住人が安心して暮らせる団地となるよう、地域の支援組織「みずほサポートクラブ」を仲間とつくりました。「団地を離れていく人がいれば、愛着があつて残る人もいる。残る人が豊かに生活を送る手助けをしたい。自分たちでやらないと」と、立ち上げの動機を話します。

支援は病院などへの送迎やごみ出しなど。住人の交流の場だったサロン「喫茶すまいる」の運営はコロナ禍でコーヒーのテークアウトに変えました。「注文数で家に元気な家族がいることや、サロンには来なかった人に会えるようになったことで、団地全体の元気が分かるようになった。多くの方とつながりが増えたことが一番大きな成果です」。「続けられるのは、助かる、心強い、言葉で勇気づけられるから。みんなの笑顔が見られればね」

多趣味で好奇心旺盛な谷村さん。今後も、住人同士の交流と支援活動を仲間と続けていきます。



コーヒータークアウトは近況を話す場にも

趣味のひとつ「玉すだれ」

今月のえび人

谷村 隆さん
 (大谷北在住・72歳)

「みずほサポートクラブ」の発起人・理事。定年後に大学で歴史を学び、海老名ガイド協会会員として活動中。海老名の自然の移ろいを楽しむ散歩が日課。約40年前からみずほハイツに居住。